

# 農業開発総合センター 大隅支場の概要

令和4年4月現在

## 1 所在地

鹿屋市串良町細山田4938番地

## 2 分掌事務

「地域の特殊性を生かした農業試験研究及び調査」(県行政組織規則)

管内概況:本県は黒ボク土壌を主とする広大な畑地帯(耕地面積約116千haのうち79千haが畑)を有し、北海道に次ぐ畑作農業地帯  
 所管行政重点事項:本県畑作農業振興のため、生産性の向上や安定生産、安心・安全な食料供給に向けた畑作農業新技術開発を行う

## 3 沿革

大正 9年 鹿児島県立土地利用研究地として創立  
 昭和39年 鹿屋支場附属農業機械化実験農場を創設(細山田)  
 " 47年 鹿児島県農業試験場大隅支場と改称し現在地に移転  
 " 48年 本館新築落成  
 平成15年 農業機械研修部門を鹿児島県立農業大学校に移転  
 " 18年 農業開発総合センター発足  
 令和 4年 農機研究室を農業開発総合センター園芸作物部に移転

## 4 組織及び職員数

- ◇支場長 1名  
〔研究職 1名〕
- ◇総務室 2名  
〔事務職 2名〕
- ◇園芸作物研究室 12名  
〔研究職 6名〕〔労務職 6名〕
- ◇環境研究室 5名  
〔研究職 2名〕  
〔労務職 3名(うち短時間職2名)〕
- ◆合計 20名  
〔事務2名 研究9名 労務9名〕
- ◇会計年度任用職員  
〔技術補助員 2名〕  
〔補助事務員 1名〕  
〔補助作業員 16名〕

## 5 施設概要

- ◆敷地面積 309,280㎡
- ・建物面積 8,629㎡  
(本館1棟, 機械格納庫等4棟, 調査室等5棟, その他34棟)
- ・ほ場面積 240,816㎡
- ・施設面積 1,124㎡(ガラス室7棟ほか)



本館



農業機械格納庫



野菜試験ほ場



## 6 主な研究内容

- ◇ 生産力・経営力を強化するための研究
  - ・サツマイモ基腐病防除技術の確立
  - ・パレイシヨの新品種育成, 原々種生産
  - ・サツマイモ, 畑作物, 野菜の品種選定試験
  - ・畑作物, 露地野菜の機械化生産システム技術の確立
- ◇ スマート農業の実現に向けた次世代農業技術の開発
  - ・大規模露地野菜経営体のためのIoTによる畑かん高度利用技術開発
  - ・農業用ドローンによる防除技術開発
  - ・野菜栽培管理用除草ロボットの開発
- ◇ 県産農畜産物の高付加価値化による競争力強化を図るための研究
  - ・加工業務用野菜の生産技術確立
  - ・サツマイモ・パレイシヨの用途別高品質・安定生産技術の確立
  - ・露地野菜の高品質生産安定技術確立と新作型の開発
  - ・「稼ぐ力」を引き出す輸出品目の生産技術の確立
- ◇ 持続可能な農業と地域資源の活用に対応した研究
  - ・気象変動等の影響を緩和する園芸品目生産技術の開発
  - ・地域資源の有効活用に向けた施肥技術の確立
  - ・持続的な施肥管理技術の確立
  - ・畑作病害虫のIPM技術及び露地野菜等の体系防除技術の確立

## 7 これまでの成果等



マイクロスプリンクラー散水  
エンジンの発芽不良を抑制



原料用サツマイモ「九州200号」  
基腐病抵抗性は「シロユタカ」  
より強い



短節間カボチャ「栗五郎」  
畝幅を5mから3mに密植  
すると増収



露地野菜における生態系を  
利用した防除技術開発



サツマイモのコガネムシ  
類に対する各種殺虫剤  
の効果



地域未利用資源の有効利  
用による施肥試験